

東日本大震災 2011年（平成23年）3月11日午後2時46分（マグニチュード9・0）

NO82

各位

2017年7月11日（火）

桜丘高等学校 生徒会

孫便りの会・生徒一同

～今日で東日本大震災から6年4ヶ月が経過～

過日の北九州豪雨による災害で被災された方々の一日も早い復興をお祈りいたします。さて、東日本大震災発生より6年4ヶ月が経過し、私たち桜丘高等学校はこれまで実に多くの豊橋市民の方々のご支援・ご協力により復興支援活動を継続してくることが出来ました。有難うございます。支援当初より、10年は支援しますと約束してスタートした支援活動を振り返るのはまだ早いと思われますし、現実問題として、現地ではまだ土地のかさ上げ・防潮堤の建設等が続いています。そういう意味からも、今後も継続した支援活動が必要であると思われますので、是非ともご支援下さいますよう、宜しくお願ひ致します。因みに豊橋東ロータリークラブさんでは、毎月1回定例会で募金箱を置いてくださることになりました。有難うございます。

＜今気仙沼で起きている事！その真実と問題点＞

私たちが震災発生以降6年間復興支援してきた気仙沼では、ここにきていろんな問題が出てきています。例えば、復興商店街の問題です。気仙沼港近くにあって、これまで実に多くの人たちで賑わった復興屋台村は今年の3月に解体されました。近くに新たな復興商店街として今年の5月には建物も新築され、復興住宅と共に完成し、スタートする予定でしたが、未だスタートが切れる状態にはなっていません。

一方、仮設住宅の取り壊しが進み、仮設住宅から復興住宅に移り住んだ人たちの間でも問題が出てきています。仮設住宅の時には、住民が孤立しないように集まれる集会所があり、そこに集まってコミュニティを作っていました。ところが、復興住宅には無いことが分かり、市の方へ早速「ふれあいセンター」なるものを要求し、それが認められて建設されたまでは良かったのですが、その使用方法に問題があり、通常はセンターの鍵が地元自治会長さんの所にあり、使えないとの事。せっかく作ったものが生かされていないのです。過日、熊本に出掛け見てきた気仙沼の「ふれあいセンター」と同じ機能を持つ熊本の「みんなの家」は、いつでも解放されていて、仮設住宅の人たちだけでなく地元住民も自由に使えるという優れものでした。本来は、熊本の様にあるべきです。復興住宅内に籠り、不幸なことにならないような取り組みが絶対に必要です！！そのことの訴えも含めて私たちは8月に以下のような日程にて気仙沼に出掛け、19回目の復興支援活動をしてきます。

＜第19回東日本大震災復興支援行動＞

日 時：8月25日（金）～28日（月）（大型バス一台）

目的地：気仙沼市（大島も含む）